

# 岡垣町英語教育改革イニシアティブ 2022 (SINCE 2016)

## I 音声活動を重視した授業改善

### 1. 積極的な音声活動の実施

①英語の授業開始時や朝学習の時間に、デジタル教科書・教科書付属音声等を活用した音声活動を行う。

■音声活動を反復して行うことにより授業内容の理解を深める。また、デジタル教科書・教科書付属音声・教師の英語や友だちの英語を聞くことで、リスニング力を高め、英語の正しい発音や、英語の意味を理解して話せる英語力を養う。

■福岡県高校入試において、60点満点中、20点がリスニング問題であることから、小学校でも授業中にリスニング問題をしたり、中学校においては授業や定期考査において、リスニングテストを実施したりして、児童生徒の理解度を把握し、改善に努める。また、リスニングの学習により速読力を養成する。

②授業の開始時に small talk を用いて指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝えあう活動を行ったりする。

③小学校や中学校の導入においては、授業の最初に文字と音を繋ぐ活動（フォニックス）やアルファベットの学習を行い、児童・生徒にとって苦手になりやすい「読み・書き」の部分をスモールステップで導入・定着を図る。

④各単元の終末では必ず習った英語表現を「自分ごと」として発信する機会を与える。インプットとアウトプットを組み合わせる指導する。

⑤授業の最初の small talk では、旬の話題について触れるようにする。  
例えば、日本の文化（正月、節分など）や冬季オリンピック（平野選手の技のひとつ triple cork 1440 など）

## 2. 英語の歌に触れたり歌ったりする活動の導入

①英語をより身近に感じさせ、楽しく英語を学ぶ環境を整えるため、児童・生徒たちにとって身近な英語である「歌」を授業に取り入れる。

- 学期ごとに課題曲を選曲し、授業に取り入れる。
- 昼休みの校内放送などで英語の歌を取り入れ、日頃から英語に親しむことのできる環境を整える。
- 児童生徒の学習の負担を考慮し、曲全体でなく、サビの部分から指導していき、徐々に歌う量を増やしていく。また、ALTの発音や英語科教員の発音を聞いて英語特有の語と語の連結による音の変化等に気付かせる指導を行う。

②チャンツを用い、リズムに乗せて単語や英文のかたまりの指導をする。

## II ICT機器の充実と積極的な活用

### 1. 小中学校普通教室へのICT機器の設置

①小中学校の普通教室に「超短焦点型壁掛けプロジェクター」と「投射用スクリーン」、「タブレット式パソコン」「デジタル教科書」「電子黒板」などを設置する。

■デジタル教科書を活用することにより、教師と生徒の授業内容の共有化を推進しながら、わかりやすい授業を目指す。

■デジタル教科書のネイティブな音声を多く授業に取り入れ、生徒のリスニング力の向上を図る。

■スピーチの練習で、自分の英語の発音をチェックしたり、ペアでやり取りする際の様子を録画したり、やり取り後にタブレットで動画を見直して、振り返りに活用させる。

■Teams/Formsを活用して、小テストや英語学習における学習アンケートを実施する。

■google 翻訳を活用して、自分で伝えたい英語表現を調べたり、知らない単語の意味や発音を児童生徒自身で調べたりさせる。

②NHK for school や外務省作成のキッズ外務省などのコンテンツを授業で活用する。

### 2. ネットワーク環境の充実

①町内両中学校の普通教室へ無線LANを設置する。

■有用な動画コンテンツを授業で使用できるよう環境を整備する。

■家庭学習でも役立つ、文科省等の動画コンテンツを紹介して、家庭でも英語に触れる機会を作る。

■児童・生徒が紹介したいこと・ものの画像をタブレットで検索し、Teams に投稿することで、学級全ての児童生徒と共有したり、そこでやり取りしたりできるようにする。

### III 各技能をバランスよく評価する定期試験の実施

#### 1. 4技能を意識した定期試験の工夫・改善

①現行の定期試験（中間考査・期末考査）を4技能（聞く・読む・話す・書く）を意識したバランスの良い試験となるよう検証する。

②「話す」活動については、繰り返し練習してその技能を高める必要があるので、授業の中で児童生徒が自分の気持ちや考えを「話す」時間を十分に確保し、スピーチやスピーキングテスト等を授業で実施し、随時評価を行う。

- やりとりや発表するために自分の考えを思考判断したり表現したりする力を身に着ける。
- やりとりや発表、パフォーマンステストなどを段階的に評価に取り入れる。
- 評価基準を児童生徒に共有し目的をもった活動を導く。

③「読み・書き」が苦手な児童も「聞く・話す」が得意なことが多くあるので、それぞれの児童が得意な部分で輝けるよう、4技能を等しく評価できるようにする。

- 読む・書く活動については、帯活動で継続的な学習の時間を確保する。
- 文字指導においては、段階的に音と文字をつなげる学習を取り入れる。
- 英語嫌いにならないよう、「できない」ことは「悪い」ことではないという、気持ちの部分でのサポートを意識して行う。

## IV モチベーションを上げる体験の提供

### 1. ALT・JTEの配置

①小中学校にALT（外国語指導助手）を配置する。

■主に小学校の外国語活動や中学校の英語授業において、チームティーチングにより指導を行う。また、中学校の定期考査時期などには、中学校のALTを小学校へ派遣し、小学校高学年の外国語授業においてALTが活用する。

■英単語や英文の発音のモデルだけでなく、自分の気持ちや考えをALTに伝えたり、その場でALTからの質問に答えたりする、実際のコミュニケーションの相手とする。

■ネイティブの発音に触れたり、自分の英語の発音を正してもらったりする。

②小学校にJTE（日本人英語講師）を配置する。

■児童の英語によるコミュニケーション能力の向上や言語や文化に対する理解の推進などを図るため、専門的な知識を有する日本人英語講師による授業支援を行う。

### 2. 校内英語教室の設置

①中学校に「英語教室」を設置する。

■ALTが勤務する教室として運用する。

■原則として教室内は英語を使って会話するほか、外国の文化や言語に係る資料などの掲示や英語の歌・映像などを流すなど、生徒が英語に親しむ環境を整える。

②英語の図書を充実させ、多読学習が出来るようにする。

### 3. 英語に触れる機会の提供

①児童生徒の外国や英語への興味・関心を高めるため、英語に触れる機会の提供を検討する。

■ゲストティーチャーによる保護者の参加が可能なグローバル講演会の実施

■スピーチコンテストの実施

## V. 小学校・中学校合同ワーキング会議

- ①小学校において外国語が教科化されたことに伴い、英語教育推進に係る組織体制を見直し、小中接続が円滑に行える組織体制を構築する。

### ■英語教育改革ワーキング会議の設置

会議組織員：小学校校長代表、中学校校長代表、小学校主幹教諭代表、中学校英語教諭、  
小学校外国語担当、JTE、教育委員会事務局

- ②児童生徒のために学びの接続がスムーズになるように、定期的に小⇄中で授業をお互いに見学し合う。